

令和6年度病害虫発生予報第1回（イネ）

令和6年4月5日
J A 愛知東営農部
新城設楽農林水産事務所
農業改良普及課

～愛知県農業総合試験場病害虫防除室発表の最新情報～

1 スクミリンゴガイ情報第1号より 4月3日発表

- 本種は、ほ場や水路で越冬し、水温が15℃以上になると活動を開始します。特に、田植え後約3週間までのやわらかい苗を食害します。昨年の発生ほ場数は平年よりも少なかったですが、冬期の温度が高かったため、越冬数の増加が懸念されます。3月28日の季節予報では向こう1か月の気温は高い予報となっており、活動開始が早まる可能性があるため注意してください。
- 前年作で被害が大きかったほ場では特に注意が必要です。スクミリンゴガイの発生が確認されているほ場では、薬剤散布（スクミノンなど）を行きましょう。
- なお、本種は田植え後すぐに摂食を開始するため、移植同時または移植直後に薬剤散布を行きましょう。
- 他の対策として、本種は水中でないと摂食できないため、移植後3週間頃まで浅水管理（水深4cm以下）を行うことや取水口にネット等を設置し、水路から本田への侵入を防ぐことも重要です。

2 令和6年度病害虫発生予報第1号（4月）より 4月3日発表

- 苗いもちの発生は平年並みの予報です。

【薬剤散布時の水管理について】

田植え作業時または作業後に薬剤を散布する際は、少なくとも3～4日間は湛水状態（水深3～5cm）を維持し、散布後7日間は落水、かけ流しをしない。